

超速硬性コンクリート用パック詰め ジェットパック

ジェットパックとは

現在、超速硬コンクリートの現場練りには、単位水量、骨材、現場計量の手間など様々な問題があります。これらの問題を一挙に解決するために使用材料のすべてを吟味・計量済のパックにしたものが「住友大阪のジェットパック」です。

ジェットパックの特長

- ジェットパック用に厳選吟味された各材料は計量・包装されていますので、計量の手間が省け、品質が安定します。
- 1セットあたりの練上り量は約25リットルです。
- 3時間で 24N/mm² 以上の強度が得られます。(20°C室内試験)
- 長期にわたって安定した強度を示します。
- 浮き水（ブリーディング）がほとんどなく打設後沈下がありません。

ジェットパックの用途

マンホールの嵩上げ・側溝工事
上下水道・配管、配線工事
機械等の据付工事等の緊急工事
家庭用（園芸、土間、各種補修）等・
その他緊急を要する諸工事



※製品容器は製造工場により多少異なっています。上記写真は一例です。また今後、製造の都合等により予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

被膜養生剤



スミセエスシー

プライマー



ライオンボンダ

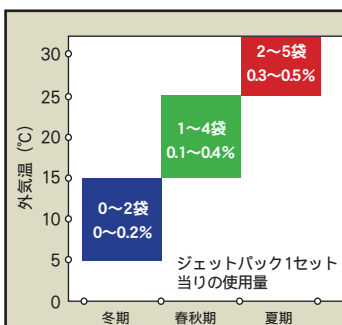
ジェットパックの標準配合例

配合 (kg)	パック-1		パック-2	パック-3			練上り量 (ℓ)
	セメント	細骨材	粗骨材	水	減水剤	遅延剤 (添付)	
袋	27		28		3.8		約25

● 使用条件・保存状態により、スランプが変動します。ジェットパックの推奨水量は3.8kgですがスランプ変動に対応するため、パック3には4kgの水量が入っています。試し練りに水量決定を行ってご使用ください。

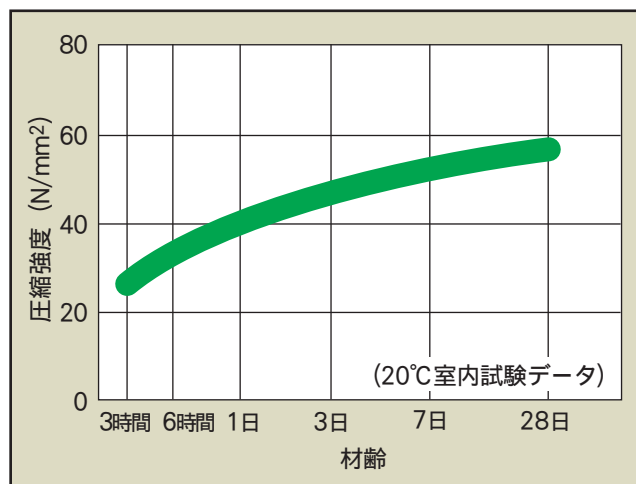
● ジェットセッターは外気温に応じてパック3にあらかじめ適量を添加してください。

ジェットセッター(遅延剤)の外気温別の添加率



※ジェットセッターを使用することにより、ハンドリングタイム（可使時間）を調節することができます。グラフを参考に、外気温に応じたジェットセッター量を試し練りにより確認してください。
※パック-3に同梱されているジェットセッター以外に別売もごさいます。

ジェットパックの材齢と圧縮強度の関係



施工手順

使用材料

ジェットバック
 バック1：ジェットセメント+細骨材
 バック2：粗骨材
 バック3：水+混和剤+ジェットセッター

被膜養生剤：スミセエスシー
 プライマー：ライオンポンドA

※スミセエスシー、ライオンポンドAは2~3倍希釈でご使用ください。

打込み

- 旧コンクリートの下地処理は十分に行ってください。打込んだコンクリートの水分が型枠・旧コンクリートなどに吸われることがないように打ち水、もしくはプライマー処理・ブラスト処理等を行ってください。
- パイブレーターで十分に締め固めてください。
- ジェットバックは硬化が速いので、作業が中断しないようにしてください。
- 多層打ちを避けて、一層打ちにし、打ち継ぎ目を作らないようにしてください。
- 硬化しかかったモルタル・コンクリートに、水を加え練り返して使用しないでください。

準備

- コンクリート用強制練りミキサー、または傾胴式ミキサー等。
- 計量容器、ハカリ、コンクリート受皿
- 内部振動式パイブレーター
- スコップ、木ゴテ、金ゴテ
- 養生剤・養生マット・養生シート等

※硬化が早いため道具を多めに用意してください。

表面仕上げ

- 施工可能時間は、ジェットセッター添加率により変わりますが、およそ20~30分ですので表面仕上げは早い時期に行ってください。表面仕上げ終了後、できるだけ早い時期に被膜養生剤（スミセエスシー）を噴霧器等で、均一に散布してください。
- 表面仕上げを行う際に、モルタル・コンクリート表面に水・混和剤をかけないでください。

養生

環境条件の違いによる養生方法の組合せ例

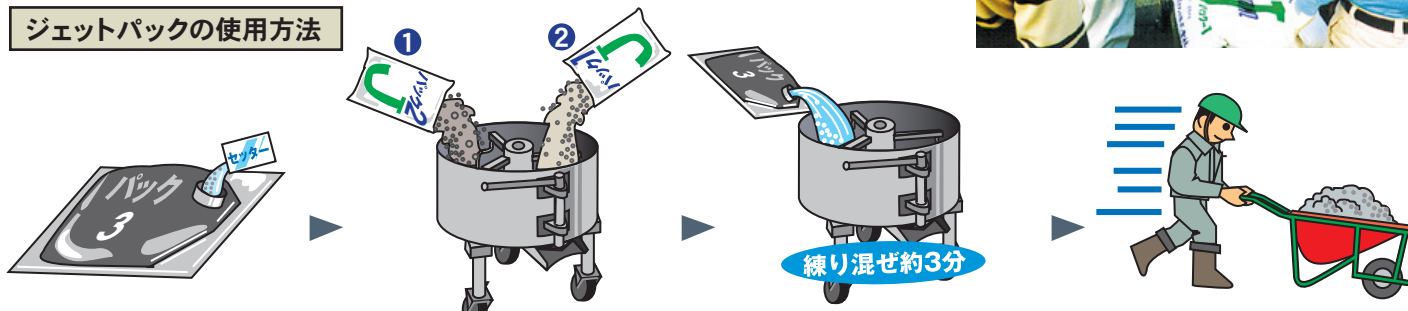
環境条件	10℃以上	5℃~10℃	5℃以下
養生方法	皮膚養生	皮膚養生	皮膚養生
	↓	↓	↓
保温養生	保温養生	保温養生	保温養生
	↓	↓	↓
シート養生	シート養生	シート養生	シート養生
	↓	↓	↓
加温養生	加温養生	加温養生	加温養生
	↓	↓	↓
後養生	後養生	後養生	後養生
	↓	↓	↓
	供 用 下		

保温養生：保温マット等による養生
 シート養生：不透水性シートによる養生
 加温養生：ジェットヒーター・電気毛布等による養生

- 養生は原則、施工後3時間以上行ってください。
- 養生中のモルタル・コンクリートには、散水等を行わないでください。
- 加温養生を行う際はモルタル・コンクリートに直接熱源や風を当てるとひび割れの原因となりますので、必ずシート養生を行ってから実施してください。



ジェットバックの使用方法



ジェットセッター（遅延剤）の投入

- 外気温に応じてバック-3にジェットセッター（遅延剤）を投入し、ふたをして、バック-3をよく振って、よくかき混ぜ溶解してください。

バック-2、バック-1をミキサーへ投入

- ミキサーにバック-2、バック-1の順に開封投入します。なお、ミキサーはコンクリート用強制練りミキサーまたは傾胴式ミキサーをご使用ください。
 ※モルタルミキサーは使用しないでください。

バック-3をミキサーへ投入後、練り混ぜ

- バック-2、バック-1の投入後、ミキサーにバック-3を投入し約3分間練り混ぜます。

練り上がり

- ジェットバック1セットあたりの出来上がり量は約25リットルです。直ちに施工箇所に打ち込みます。

暑中対策

- 材料温度が高いと練り上がり温度が上がります。急激な硬化の原因となりますので以下の処置を行ってください。
- 材料は直射にあたらないように保管してください。
- 外気温が30℃を超え、練り上がり温度が35℃を超えると予想できる場合は、冷水等を使用し練り上がり温度が35℃を超えないようにしてください。
- 打設後の養生は直射、風等による乾燥がおこらないよう施工後すぐにシート養生等を行ってください。

寒中対策

- 氷雪のついてる材料は、そのまま使用しないでください。
- 打ち継ぎ目のコンクリートが凍結している場合は、適当な方法でこれを溶かし、打ち継いでください。
- 材料を加温する場合は、水または骨材を加温するのが効果的です。
- 材料を加温した場合、モルタル・コンクリートの性状が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 型枠の取り外し時は、打設箇所の温度を急激に低下させないようにしてください。

使用上の注意

- 本製品は強いアルカリ性を呈し、目、鼻、皮膚等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。直接、皮膚に触れたり、目に入らないようにしてください。
- 作業時には、保護手袋、防塵マスク、防護眼鏡等を必ず着用してください。
- 目に入った場合は、きれいな水で十分に洗眼し、直ちに専門医の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、きれいな水で十分に洗い流してください。
- セメントの容器（袋）は完全防水仕様ではありませんので、保管は屋内で行ってください。屋外に仮置きする場合は、パレット等でかさ上げし防水シートで覆ってください。開封したセメントは、なるべく早く使用してください。
- 他のセメントと混ぜないでください。

物性値の詳細については、当社試験成績表等をご参照ください。
 使用および取扱いの前に、当製品の安全データシート(SDS)をお読みください。
 本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。

住友大阪セメント株式会社 建材事業部

東京 〒102-8465 東京都千代田区六番町6番地28
 大阪 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-4(アクア堂島東館15F)
 札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北3条西2-10-2(札幌HSビル10F)
 東北支店 〒980-6003 仙台市青葉区中央4-6-1(SS30 3F)
 北陸支店 〒920-0849 金沢市堀川新町2-1(井門金沢ビル7F)
 名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル3F)
 四国支店 〒760-0033 高松市丸の内4-4(四国通商ビル6F)
 広島支店 〒732-0827 広島市南区稲荷町4-1(広島稲荷町NKビル7F)
 福岡支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-2-5(紙与博多ビル8F)

電話 03(5211)4752 Fax 03(3221)5624
 電話 06(6342)7704 Fax 06(6342)7708
 電話 011(241)3901 Fax 011(221)1017
 電話 022(225)5251 Fax 022(266)2516
 電話 076(223)1505 Fax 076(223)0193
 電話 052(566)3202 Fax 052(566)3273
 電話 087(851)6330 Fax 087(822)6870
 電話 082(577)7645 Fax 082(577)7646
 電話 092(481)0186 Fax 092(471)0530

本製品に関するお問い合わせ・ご用命は